京城日報 夕刊 八月二日（日）

光る商業美術寫眞

全朝鮮寫眞聯盟・朝鮮最初の試み

第一部　專賣局製品入賞者

（上左）一席　清原辰男（韶寫友會）
（上右）二席　大森勝一（韶寫友會）
（下右）三席　柿元一（木浦光畫研究會）
（下中）五席　濃江吉三郎（探光會）
（下左）四席　石井喜一郎（鐵道局寫眞同好會）

（2）

邦枝完二作
神保朋世繪

生嬢（二）

鶏の手習ひつひ見習ひて、無に越しよとて紐がねつきよぞ――と淺川家之丞が[illegible]成寺の[illegible]を見るまでもなく、十の年から小僧に來て『昨年の暮に年が明け、去年から三年の御禮奉公を勤めてゐる庄吉は、お眞に取つては世にいとしい者の、たつた一人の相手だつた。

『ほんにまア庄どんは、半四郎のお小姓吉三さんのやうでございますよ』などと、それと知つてか知らずにか、婆やがちよい〳〵附かせてくれる褒言葉を耳にする度に、お眞はいつも耳の紅くなるのを覺えて、まともに顔を上げてゐることが出來なかつた。

何をおいても、一度は出なければならない御殿奉公とは覺悟してゐるし、同時に止めたくて止められない身分の者を考へたら、これに越した幸福のあらう筈はないとも思ふのであつたが、しかもお眞は、これから三年の間、宿下りの日より他には、どれ程會ひたくても會はれないことの出來ない庄吉のことを思ふと、急に世の中が闇になつたやうに胸が迫つて、いつか瞼を濡らすことさへ度々だつた。

そのくせ面と向つては、何もいへるお眞ではなかつた。

もとより主從と奧との嚴しい隔ての、窮められることのないところから、お眞としても庄吉と顔を合せる機會は、ほんの數へるくらゐにすぎず、ともすれば十日も會はずに暮らすこともないではなかつたが、それにしても同じ屋根の下にゐるとなれば、せめては聲を聞く樂みも三度に一度はあるし、時には庄どんと呼ぶ番頭の聲に、『へーい』と答へる庄吉の優しい返事を聞くことも出來るといふもの。近頃お眞の思ひは、頭の天邊から足の爪先まで、悉く庄吉のことが積り積つて、人形役者の話など聞かされても、まつたく文字通りの馬耳東風になつてゐた。

正月二十日といへば、まる〳〵[illegible]すに過してもあと二十日足らず。

石町の鐘一つ鳴る度毎に、[illegible]上る日が一足づゝ近づいて來るを數へば、お眞は子供の時から聞き慣れた鐘の音ではあつたが、今は憎くて堪まらなくなつてゐた。

『お嬢様。――』

茶の仕度をしに行つた婆やのおかつが戻つて來たのを、お眞は[illegible]の開く前からよく聞き分けてゐたが、[illegible]に顔を押し當てたまゝ、わざと返事をしなかつた。

『おや〳〵お嬢様、婆やの遅うございましたので、御立腹でございますね。』

[illegible]の方へ膝つた婆やが、笑ひながらお眞の顔を覗き込んだ。

『もう〳〵あたしや、眼が醒いてしまふぢやないか。なんてまア遅いのさア。』

『申譯がございません。ですけど[illegible]お嬢様、これは決して婆やが好きで好んで、遅れましたのではございませんよ。』

『おや、そんなら何んで遅くおなりだぞえ。』

『あの只今庄どんが。……』

『えッ、庄吉がどうしたとえ。』

お眞は蒲團に埋めてゐた顔をあわてゝ起すと、おかつの方へ眼をみはつた。

『お嬢様お許びなさいませ。庄どんはお上さんのおいひ付けで、ぢきにこゝへ双六のお相手にまゐります。』

『まア嬉や。――』

『お嬉しうございませう。』

『おたしや、あたしやそんなこと、知らぬわいなア。』

お眞は派手な友禪の振袖でおかつを打つ眞似をすると、そのまゝ顔を掩つてしまつた。

『おほゝゝお[illegible]のお茶が冷めてしまふぢやございませぬか。遅くお飲みなさいませ。』

『お茶も水も、もう何もいらぬわいたア。』

[illegible]の室に誘はれた紅椿が、お[illegible]までの[illegible]、伊萬里焼の植木鉢に、甘やかな[illegible]を放つてゐた。

西班牙の騒ぎ熄まず

伊國の叛軍支援で全歐洲に重大事態か

左右二大ブロックに分裂せん

佛國務會議では成行重視す

【パリ一日同盟】イタリーは公然スペイン叛軍を支持し、盛んに飛行機その他武器を供給してゐると傳へられるが、更に噂によれば、革命が成功した場合、地中海のバレアリック群島をイタリーに割讓することを條件に、叛軍とイタリー政府との間にファシスト共同作戰の密約が成立したと云はれ、フランス政府に重大衝動を與へてゐる、フランス政府は既に一日の緊急國務會議に於て外國が叛軍を支持する場合は行動の自由を留保する方針を明示したから、イタリーがフランスの中立嚴守の提言を無視する行動を續ければ全ヨーロッパが左右の二大ブロックに分裂、抗爭する重大事態が發生するに至りはしないかと憂慮されてゐる

叛軍に外國の援助で佛政府重大な聲明

將來行動の自由を留保す

【パリ一日同盟】フランス政府は一日の國務會議終了後、次の公式聲明を公表、スペイン革命軍に對し外國が援助を與へる場合はフランス政府は行動の自由を留保する旨表明した

政府はスペイン國內の危機より惹起することあるべき一般的問題、就中外國が軍需品供給の形式において行ふ干渉の發表すべき問題につき慎重檢討を遂げたフランス政府はスペインにおける斷變に先立つて、締結された協定に基き、スペインに對する武器輸出禁止を嚴重履行して來たが、現在外國が叛軍に對し軍需品を供給しつゝある事實に當面し、フランス政府も亦將來完全に行動の自由を留保することを茲に聲明するの餘儀なきに至つた次第である

貫として一千萬法を支出すると共に、

一、フランス政府はスペイン革命に嚴正中立を維持すると共に、英伊兩國に對して同樣の態度を堅持するやう要請する

一、英伊兩國政府がフランスの提言を受諾した場合は、西部地中海諸國に對しても同樣の提言をなす

一、但し外國が叛軍に武器を供給する以上フランス政府も行動の自由を留保す

一、デルボス外相から佛領モロッコにイタリーの飛行機が不時着した事實を詳細報告したが、モロッコ官憲からの正式報告を接受して後、イタリー政府と交渉をなし、適當の處置を講ずることとなつた

政府當局談

フランス政府はスペイン革命に對して嚴正中立を守る方針であるが、外國が叛軍に武器を供給する時は、一方的中立に束縛される必要はないと指摘する、フランス政府は各國政府に對して中立維持を提言することに決定したが、調定すべき回答に接し得ればスペインの內亂は急速に解決されると共に、憂慮すべき國際紛爭を回避するとが期待出來る、フランス政府の希望するところは各國に承認されてゐるスペインの合法的政府と友好的關係を持續することゝ、スペインの秩序が速かに回復されることである

ジ海峽通過は危險

【ジブラルタル一日同盟】ジブラルタル軍港司令官は一日ラヂオを以て港內船舶に對してジブラルタル海峽に於てスペイン政府の驅逐艦と革命軍の飛行艇が盛々交戰してゐるから、海峽通過は危險であるとの警告を發した

佛政府の對西策

諸國に中立を要請する

【パリ一日同盟】フランス政府はスペイン革命が重大なる國際問題に轉換せんとしてゐる情勢に鑑み一日エリゼー宮にルブラン大統領臨席の下に緊急閣議を開き、前後三時間半に亘つて對策につき檢討を重ねた結果、左の如く決定した

一、スペイン在留フランス人引揚

五ケ國會議外交折衝

獨伊參加に英國は頗る滿足

十日ごろ開始されん

【ロンドン一日同盟】イギリス官邊ではドイツ、イタリー兩國政府が五ケ國會議に參加を承諾したことに頗る滿足の意を表明してゐる、會議は九月乃至十月頃開催される模樣である、イギリス政府はドイツ、イタリー兩國の意見を容れて會議開催前外交機關を通じて議題一般方針等につき慎重打合せを遂げ、十分地均しの工作を行ふ意向である、外交折衝は多分八月十日頃から開始される

“經濟封鎖”を打破

廣西軍合浦に進撃

中央軍の包圍突破か

【廣東一日同盟】廣東への入電によれば、南寧方面より東進せる廣西軍四千は、突如欽縣より省境を突破して廣東省內に入り、靈山城を占領、更にそれより南下し陸川方面より進撃せる廣西正規軍と合し、大擧南下中といはれる、右は北部、東部省境に於ける戰線を短縮して、廣西軍は中央軍の包圍線を打破し、欽州半島以西の廣東南部の海岸線を占據し、中央側の經濟封鎖を脫せんとする作戰と見られる、この形勢を重大視せる余漢謀氏は今朝來一部廣東軍を欽州半島方面に輸送しつゝあり、廣東中の第一艦隊所屬軍艦三隻を擧げて海南島方面に出動した

梧州に大軍

戒嚴令で謠言

香港に避難民

【香港二日同盟】梧州より來着せる旅行者の語るところによれば、目下同地方では大軍雲集し、戰時氣分濃厚である、當局は七月二十九日戒嚴令を布き、市街は夜間行人少く、不氣味な狀態を呈してゐる、謠言は戰々として行はれ、市民は戰々兢々たるものがあると、昨日同地より入港した西江汽船には避難民六百名が乘つてゐた

土民軍頼りに伊軍を襲ふ

エチオピアで

【チブチ一日同盟】エチオピアよりの旅行者談によれば、最近テッシエ附近においてエチオピア土民軍とイタリー正規軍との間に衝突起り、雙方に數十名の死傷者を出し結局土民軍がテッシエ奪回に成功したといはれる、また最近土民軍はアヂザベバを襲撃したが、これはイタリー軍の勝利に歸し、雙方數百の死傷者を出したと傳へられる

地震保險法案成る

商工省で強制、國營を作り

來議會に提出の意向

【東京電話】商工省では保險制度根本的確立のため、地震保險制度に關し、從來の案を骨子として事務當局において審議を進めてゐたが、大體の成案を得たので、可及的來議會に地震保險法を提出すべき意向である、我が保險約款によれば、地震による損害は、保險金額の支拂ひをしないことになつてゐるので、商工當局では社會保險の見地から地震保險を國營とする強制保險制度を制定について立案し、過去二議會に提出したが、豫算その他の關係から實現を見るに至らなかつた、現內閣の面目一新策と相俟つて、商工省では地震保險制度の實現に最も好機會と認められるので、事務當局より小川商相にこれを建言することになり、今やこれが實現は商相の決斷にかゝつてゐる、而して地震保險法案の骨子とするところは次の如くである

▲地震保險法の制定

一、地震保險制度はこれを國營となし、商工省の所管に置く

一、火災保險契約者は法律の定むるところに從つて地震保險に強制加入すること

一、地震保險料率は保險金額一千圓に對し年額三十錢（從來の案は二十錢）とす

英蘇海軍協定

極東に於ける海軍力も問題

タス通信、成立と報道

【モスコー一日同盟】タス通信は英、蘇海軍協定の成立に關し左の如く報じてゐる

去る七月三十一日ロンドンにおいて英蘇海軍協定が成立した、イギリス代表はソヴエート海軍の特殊事情を承認し、ソヴエートの若干の要求を承認した、しかしソヴエート側も協定を成立せしめる目的を以て相當讓步をなした、ソヴエートの特殊の地理的位置及び內亂の結果、ソヴエート海軍の一部が國外へ持ち去られ、賣却された事實に鑑み條約文中若干の留保を加へるとを提示した、第一にソヴエート政府は海軍問題に關するソヴエート政府と日本政府との間に協定が成立する迄は、極東における海軍力を條約によつて拘束されることを不可能とす、但し極東における他の國が海軍力を規定された限度以內に置くならば、ソヴエート政府は自ら建艦競爭を開始する意向なきことは勿論である、次にソヴエート代表はソヴエートの地理的狀況並に其特殊事情に關聯し、三項に亘る問題留保を要請したがイギリスとの步み寄りにより、ソヴエートは讓步の絕對必要條件を詳細に檢討するに止めた、最後にドイツ政府も同樣の條約に調印されんことを申出でたがドイツも亦同樣の義務を受理する用意ありと信ずる

英埃協定

一日假調印

【カイロ一日同盟】英埃兩國政府はアングロスーダン統治に關するエヂプト政府の參與權擴大に關し交渉中であつたが、協定成立し一日假調印を了した

革命軍に外國人が多數

【パリ一日同盟】一日フランスの緊急閣議席上サラングル內相は「フランス國境を越えてスペイン政府軍或は革命軍に投ずる外國人は多數に上つてゐる」と報告、協議の結果「正當なる旅券を所持し武器を携帶してゐない場合は國境の通過を禁止する譯には行かない」といふに意見一致した

タンヂール港から西政府艦退去す

政革衝突の危險緩和

【タンヂール一日同盟】スペイン政府艦隊は七月十八日以來タンヂール國際港に碇留、革命軍との間に屢々衝突を起し、中立國の艦船に危險を及ぼしてゐるので、英佛兩國政府は、さきに艦隊の退去を要求したが、三十一日夜水上艦、驅逐艦とともに悉くタンヂール港を出港した、此結果國際港の事態は大分緩和されるに至つた、イギリス巡洋艦カテディ號はソムヤーヂイル提督坐乘、一日朝タンヂール港に入港した、テッアンよりの報道によれば、モロッコ革命軍の一隊は一日テッアンに到着、某國から購入した飛行艇で本國に乘り込む準備中といはれる、又フランスのパリ・ミル紙の特派員は、テッアンに於て翼にナチスのハーゲンクロイツの印ある飛行機三臺を見たと傳へられる

英國の態度

不干渉は異議ないが

三國外交折衝を希望

【ロンドン一日同盟】フランス政府がスペインの內亂不干渉を目標に新交渉を提議した場合、イギリス政府が如何なる態度に出るか、もとより豫測を許さないが、イギリス政府としては內亂不干渉には原則として異議なく、唯これを實現する方法について相當意見を異にする模樣である、この點についてペルメルアセモに外交界の觀測を綜合すれば次の通り

一、イギリス政府は傳へられるイタリー政府のスペイン革命軍援助、就中イタリー軍用機のスペイン領モロッコ出動については、フランス政府よりその事實調査の報告あることを期待し、その結果に基き對策を考慮する意向である、しかし調査しても結局滿足なる結果を得られまいと見てゐる

一、外國のスペイン內亂干渉が事實であり、それに對し各國政府が共同對策を協議するとしても、イギリス政府としてはまづ英、佛、伊三國政府が外交機關によつて折衝することを希望する

一、但し正式會議はソヴエート、ドイツ兩國政府の協力を俟つて始めて効果的であるが、この兩國政府は常に相反する立場にあり、從つて會議の成功は期し難い

一、イギリス、フランス兩國政府共軍需品の對スペイン輸出禁止には贊成であるが、一般商品の輸出は自由とする意向である

“三角戀愛”の果て

內需町に刄傷

義弟、姉婿を六ケ所斬りつく

新婚生活に妓生の呪

一日朝八時半頃京城內需町七〇ノ九九金相說君（二）は、朝早く訪れた某の弟、京城鍾路六丁目柳某（二）と對談中、突如斬りつけられ〝畜生〟の聲と共に鮮血に染つて倒れた、鮮血したゝる短刀を引さげた男は形相物凄く、その部屋から現れるや、騒ぎたてる家人を睨みつけ、そのまゝ脫兎の如く同家を飛出して姿を晦ました

鮮血

に染つた金相說君は直に附近の醫院で手當したが頭の頂上に二ケ所、右の耳に一ケ所、肩甲に二ケ所、左手の指先一ケ所合計六ケ所を斬られて重傷、出血多量のため生命危篤なので、應急手當の上更に某病院に入院、輸血手當中であるが生命覺束ない

愛！人をして盲目ならしめる戀！一人の男を繞ぐる二人の女性——將來を誓つて捧げる妓生の純情、名望家の令孃との結婚、この三角愛がもつれ、もつれ、果てはむし暑い夏の朝血なまぐさい修羅場となつて現れた

慘劇の原因

慘劇の原因は數年前、金相說君が某官廳在勤時代、朝鮮券番の妓生崔玉姬さん（二）と切り難い仲になり、ピッチ物凄く遂に將來を堅く誓ひ合ひ、玉姬さんは純情の總てを金君に捧げ花柳界でも大評判だつた、かくして玉姬さんが甘い夢を胸に抱いて喜びに燃えてゐる折も折、突如去る六月中旬、意外にも信じてゐた金相說君が名望家で元牧師である柳某氏の令孃と華燭の典をあげることになつた、と知つた玉姬さんは驚きしりして口惜んした、同情の同輩は怒ち玉姬さんに集まり、金君に對する復讐の念は燃えたそれは今まさに新郎新婦が華やかに結婚行進曲が奏でられんとした時、突如躍り込んだ玉姬さんの姿に、神聖な式場は忽ち修羅場と化し、赤恥に止められた式典は數時間後本[illegible]

瀆職か、恐喝か

京南鐵繞る某事件

元幹部ら召喚取調べらる

本町署俄然活動始む

京城本町署司法係平林警部補、谷道刑事部長は去る卅一日天安に出張、同地に本社を置く京南鐵道會社で昭和八、九、十の三年間に亘る同社の事業を調査して歸城、二日朝は本町署長、二見司法主任を交へて鳩首の上、檢事局に赴き、酒見次席檢事と目下某重大事件を取調べ中の近藤檢事等と重要な協議をとげるなど異常な緊張振りを示してゐたが、一日朝來突然前京南鐵道の幹部で目下某社の重役をしてゐる某氏を召喚、平林警部補が徹底的取調べにあたり、一方谷道、多田、藤松の三刑事部長は某々氏ら三ケ所の家宅搜査を行ふことになり活動を開始した、事件は數年前京南鐵道幹部と關係某官吏との間に起つたと傳へられた、あるる疑獄事件につき、これをかぎつた某社の某が前後數回にわたつて恐喝した事實が明瞭となつたもので、從つて京南鐵道と某官吏との間に疑惑があるのでその眞相を質すために前記本町署の活動となつたものである、こゝ數日間の形勢成行は注目されてゐる

イブセン斷章

アルゼンチン陸軍大增員

政府から發表

【ヴエノスアイレス一日同盟】アルゼンチン政府は陸軍の擴張を圖るに決し、一日常備兵二萬七千五百人を、凡そ四萬人に增強する旨を發表した

豪雨つゞきに隧道で脫線騒ぎ

羅津各所に交通杜絶

【羅津電話】三十一日以來の豪雨のため羅津、清津間は一日から、羅津、雄基間は二日から、いづれも自動車不通となり更に二日は雄羅トンネルの中で列車脫線のため道路の交通杜絶した

京城の傳染病激增の傾向

京城府七月中の傳染病發生數は二百八十一人で前年同月に比し百十九名の減少であるが、之を都別に見ると赤痢は二百六人の發生で昨年に比べ七割二分強、流行狀況を旬日に見ると十日までに四十四人、廿日までに六十一人、卅一日までに百一人で漸增の傾向にあり、今年の赤痢流行の原因は氣候不順とお盆、澁滯の不良飲食物がわざはいしたものと見られてゐる、道衞生課では各署を動員して三日から府內飲食店の調理場の檢査、飲食店の飲食物檢査、內服藥販賣に乘り出すこととなつた

平田少將は四日龍山出發

[illegible]平田少將は四日午後三時六分龍山驛發列車で赴任することになつた（寫眞は平田少將）

全國都市對抗野球

台南大勝す

11—1　對神戶戰

（甲子[illegible]）都市對抗野球第二日

8—2　全京城敗る

對川崎戰

【東京電話】都市對抗一回戰京城對川崎の試合は午後一時二分から神宮球場で川崎先攻で開始された

川崎	1	0	6	0	0	0	1	0	0	8
京城	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2

神戶	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
台南	4	0	0	1	0	0	6	0	A	11

バッテリー
神戶　川口、假代、矢野、西澤
台南　[illegible]、杉原

全般天氣豫報（3）

地方	風	天氣
北部	北乃至東の風	一般に曇り、雨のあがる所もある
中部	北乃至南東の風	同
南部	北東乃至南東の風	右同
[illegible]	北乃至東の風	右同
[illegible]	北東乃至南の風	右同
咸北	北東乃至南東の風	右同

仁川の潮時（3）

	午前	午後
滿潮	[illegible]	[illegible]
干潮	[illegible]	[illegible]

京城地方（今晚曇り勝ち　明日右同）

仁川地方（今晚雲多く雨がある　明日右同）

◇京城溫度（一日）最高二七度八　最低[illegible]

日章旗と日の丸扇子 應援團の異彩
日本村への人氣は素晴らしい 颯爽たる我選手入場

【ベルリン一日同盟】晴れの大會開會式に臨む各國選手は、正午過ぎ意氣高らかにオリムピツク村に勢揃ひしたが、次期大會東京招致で氣を負ふ日本選手團の人氣は素晴らしく見物の少年少女は悉く日本村に呼び寄せられ、村社、吉岡、牧野などに思ひ〳〵にサインを求めてゐる、一時十五分秩父宮殿下御下賜の日章旗を捧持する陸士主將大島謙吉君、平沼總監などを先頭に各選手は本廻しのバスに分乘して村を出發、沿道の市民が送る『ヤパン』『ヤパン』の聲援を受けつゝ二時十五分競技場のポロ・フイールドに到着、次いで女子選手が元氣旺盛で合流した上、男女選手は整然たる隊伍を組んで颯爽として入場した、スタンドに陣取つた日本應援團體、東京市會代表、日本YMCAその他ドイツ初めヨーロツパ在住邦人等五百餘は、自慢の日の丸の扇子と日章旗を打振つて同胞選手に最初の聲援を送つたが、その整然たる日本流の應援振りは場内に異彩を放つた

溫厚な武人 細川二六聯隊長

【東京電話】野砲學校教官から山野砲第二十六聯隊長に榮轉の細川忠雄大佐は、鳥取市茶町の出身本年四十七歳、陸軍士官學校二十四期生名古屋砲兵聯隊附大尉、フランス留學、野砲學校に前後七ケ年間同校教官として勤務、砲兵戰術の權威として知られた人、大佐は
「朝鮮は前後七ケ年間もをるので非常になつかしい、何だか去ることが名殘り惜しい向ふは未知だが、うんと働くよ」
と元氣で語つた、趣味は謠曲で極めて溫厚な武人である、家庭にはひろ子（[illegible]）夫人との間に長女當惠（[illegible]）長男當信（[illegible]）の二人のお子さんがある

〝夏の深夜〟の鍾路街取締
◇―警察からきついお達し

大京城動脈、鍾路街チョングロや一帶に陣取るカフエー、バーなど六十餘軒の飲食店は夏の夜の鋪道にズラリと列ぶ名物〝鍾路夜市〟と共に午前一時の閉店時間もなんのその、二時三時まで妖艶な脂粉の香を漂はせ、色とりどりのネオンの下にさんざめくものあり、このため夜更けの鍾路一帶には醉漢横行、暴行、傷害沙汰が頻發し、中には夏枯れ切り拔けの一策か深夜の路上に良俗を紊すものもあるので、鍾路署保安係では嚴重取締る事になり一日關係者を呼出して今後は閉店時間嚴守と女給の監視を嚴重にせよと示達した

西部京城の警備に 又復不安の聲
增員後二刑事が轉出

龍山署では管內西部一帶の警備力手薄の非難に對し、例の西部署設置問題解決後、直ちに京畿道警察部からの增員で西部町駐在所に巡査二名、刑事一名の增員を行ひ、西部住民の不安に備へたが、それも束の間、西部孔德町一帶に精通して、惡玉連から恐れられてゐた細田、及川兩刑事の本町署轉出で再び人員不足の聲、後任は未だ決定してゐないが、富田同署警務主任は『當分このまゝでやる』といつてゐるので防犯、惡玉狩獵の中堅をなす司法刑事二名の缺員を大して氣にしてゐない龍山署當局の態度に住民は再び不安を感じ、京畿道警察局の折角の增員も水の泡だとの聲が高い

覇權目ざして 鳩群各市へ翔ぶ

【ベルリン一日同盟】第十一回國際オリムピツク大會が開かれた一日午前、ベルリン西北郊外大競技場を距る四キロのシユパンダウ軍用場では、過去一カ月二百十六の傳書鳩飼養場の中に待機してゐたヨーロツパ各國からの傳書鳩選手一萬三千羽は、早朝午前五時傳書鳩オリムピツク覇權を目指して一齊に飛翔、ローマにブダペストにコペンハーゲンにストツクホルムに可憐な選手は最長千五百キロの遠路を全ヨーロツパの各都市に向つて飛翔し去つた、彼女等は各都市別に數百組に分れて各所屬市對抗に記錄を爭ひ、その優勝鳩にオリムピツク委員會より賞品が贈呈される豫定である

愛婦の獻金 國境第一線軍警へ
娯樂用具を贈る

愛國婦人會朝鮮本部主催で昨年末催した國境警備後援デーは、非常な盛況と援助で、四萬圓の醵金を得てその內一萬圓を朝鮮軍司令部へ去る三月獻納されたことは既報の通りであるが、軍部ではこれが處理に付き現地軍隊に照會の結果ラヂオ、蓄音機、野球、庭球及び籠球、フツトボール、圍碁、將棋、双眼鏡その他慰安娯樂用品數千點を注文したが、今回全部が到着したので三日午前十時から龍山陸軍倉庫で國境の上夫々國境守備隊へ向け發送することゝなり、醵金有志へはこれを機會に參觀せしめる、この外本府へ獻金した三萬圓は機關銃を購入し、國境へ配布することゝなつてゐるが、これも近く警務局に到着する

今晩のラヂオ

六時夏休み子供の時間（東）▲六時二十五分經濟ニユース▲七時三〇分 [illegible]（東）▲七時五分 [illegible] ▲八時 [illegible] 分 [illegible]（東）▲一〇時 [illegible] ▲一〇時四五分第十一回オリムピツク大會放送（東）解說 [illegible] ▲一一時獨逸より實況

京日キャンプ村へ今夜出發

◇午後十時迄に京城驛一、二等待合室前にお集り下さい
◇雨天でも參ります
◇驛で會員證お示しの上、會員徽章をお受取下さい

颱風襲來の最盛月
空のギャングに備へ
半島八月の氣象曆

【仁川電話】空のギャングの颱風が朝鮮附近に襲來するのは八月が最も頻繁である、猛烈な颱風の災禍は飛行機による空襲の被害と比較にならぬ程甚大なものである、次に內地の盛夏は梅雨明けの七月であるが朝鮮は雨季が後れる關係で八月が一番暑い

颱風襲來の頻數

颱風の襲來期は北半球では七、八、九の三ケ月であるが南半球では一、二、三月である、極東に起る颱風のことを特に颱風と云ひ、主として南洋方面に發生する、颱風が極東に襲來する回數は一ケ年に平均十六、七回で、其の內八、九、十の三ケ月が最も旺盛で十一回に達してゐる（左圖の颱風經路圖）而して其の內朝鮮に直接襲來して被害を蒙らしたもの及間接に半島に相當の被害を惹起させた颱風の襲來を明治三十七年より昭和九年迄の三十一ケ年に亘つて調査したが、殆ど七、八、九の三ケ月に限られて居りしかも八月が最大である
朝鮮では一ケ年平均二回位の割で襲はれる勘定となり極東に現はれる回數の約一割に當る、勿論年に依つて相當に增減の激しいものである

最高氣溫

朝鮮は三面海に圍まれてゐて海岸地方は海洋性の氣候を呈するが、僅かに二、三十粁乃至四五十粁も內陸に入れば大陸性の氣候を示し、全く文字通り酷暑が如きものがある。左圖は八月に於ける全鮮の平均最高氣溫であつて昨年迄の統計に依つたものである。之に依つても一歩內陸に入ると著しく高溫になつてゐる樣相がわかる。京仁間で平均一・五度の差があり日に依つて數度も違ふことが屢々である
全鮮で一番高溫地域は南鮮內陸であつて大邱、忠州、大田、全州、光州等を中心とした盆地が最高溫で最も旺盛である
而して大邱は熱の都として既に知られてゐるから今一例として實數を揭ぐれば曾て大正四年に氣溫が三十五度（華氏九十五度）に達した日が二十三日間も連續した記錄を有して居り、又昭和七年には三十九度三（華氏百二度七）に昇つた記錄が二日も現れてゐる

八月平均最高氣溫

後藤又兵衛

大島伯鶴 演　中江正美 畫　（82）

剃髮の由來

誰ひとり答へるものがないので、秀吉は、傍にゐた黑田孝高に
『孝高如も、予の言葉に答へるものがない、其方のみは申すであらう。どうじや、秀吉の死後は誰が天下を取ると思ふ？』
訊ねられて、
『恐れ乍ら上樣の御跡を繼がせらるるは、申すまでもなく秀次どのでございませう』
と答へた。スルト秀吉が、
『それは別じや、豐臣の天下を横領なさんと致す者は、何者であるか、其方は存じ居るであらう。遠慮なく申して見よ』
いよ〳〵大變な質問になつてきた。居合はせた一同は、互に面を見合はせて、黑田が何とこたへするかと面を見合せてゐる、と、
『それは、五大老の中で御座りませうかナ』
と云つた
『ウム五大老、シテ五大老の中の何者であるか』
とまた訊く。
『さらば武藏大納言どので御座りませうか』
『否、違ふ』
『然らば前田どの』
と斯う云つたが、官兵衛孝高は人が惡い。利家の方をみると黑田奴何を吐すかと云はぬ許りに、官兵衛を、にらめつけて他所を向いて了つた。
スルト秀吉が、
『否、利家でも、あるまい』
と云つた
『然らば、毛利、上杉、池田どの』
『否違ふ、彼等はその器でない』
と秀吉は笑ひ乍ら首を左右に振つた。孝高が、
『然らば何人で御座りませうか？』
『直ぐ鼻の先に居る五大老ではないか』
『ほう抑も何者にて』
と孝高が眼をみはると
『孝高、其方じや』
と云はれて官兵衛が驚いた、
『何で私如きが天下を望みませうや』
と謙辭すると
『孝高 其方は播州に在りし時より、我既にその器量ある事を熟知いたし居る、されば秀吉は其方を以て此上無きものとして思ひ居る。なれ共大祿を與ふる時には其 [illegible]、秀吉も侵かん敵に今日まで多くの祿をも與へずにある、先づ予のなき後に、豐臣の天下を横領なさんとするものは、孝高その方であらう』
『斯くは、上樣のお言葉とも』
『否待て、孝高、秀吉には目の上の瘤が二つあるぞ、是即ち其方の申した德川家康じや、今一つは孝高その方である』
と云はれて、孝高は恐入つて面喰らつて了つた、この時家康は、只ニヤ〳〵笑つて居るばかり、後に豐臣の天下を我ものとする、ほどあつて飽まで氣になつてゐた。
併し秀吉も早く、孫に氣がついてゐた。ために雜談に交へてかういふ事を云つたが、如何に黑田孝高が只物でなかつたと云ふ事がこれに依つてもよく判る。
併し孝高として、此の時ほど迷惑に思つた事はなかつた。
ソコで
『斯は思ひがけなき事を仰せらるるものかな。孝高、甚だ迷惑仕りまする。何で左樣な大望を抱きませうや』
と斯う云つて、加茂川の屋敷へ立歸ると、直ちに髮を剃り落し、某は、水の如きものなり。如水軒にて候と秀吉の疑ひを晴らすため坊主になつて了つた。

地方版

新義州 方面委員 彌勒洞に設く

【新義州】下層階級救濟のため本年より新設される新義州府の方面委員制は目下詮衡中であるが先づ第一着手として下層階級の最も多い彌勒洞に五ヶ所新設することに決定し、近く正式に發表されることゝなつた

鳳山郡の夏秋蠶

【沙里院】春蠶景氣の反映で鳳山郡の夏秋蠶掃立數量は昨年よりもうんと増加の見込であつたが何分稀有の旱魃がたゝり桑葉の發育不十分のため昨年の掃立數よりは二百枚減の一千三百枚位に止むる外仕方なき狀態であるが、掃立期日までには相當の餘日があり、桑葉も大分見直すであらうから結局は昨年と同數の一千四五百枚の掃立が出來はしないかと見られてゐる

米、松、土地の三つに 捉はれ過ぎるな

盡きせぬ資源を活かせ 咸南は限りなく伸びる

農民道場の開場式に 宇垣總督の訓示

【咸興】赴戰高原の巡視を終つた宇垣總督は一日午後三時、咸南農民道場の開場式に參列して大要左の如き訓示をなした

農は國の大本であり國民の大部分は農民であるが遺憾ながら朝鮮の農業はなほ頗る幼稚であり遲れ勝ちである、これを進展せしむるには農村が潑剌たる氣力を持たねばならぬ、これ即ち先年來農村振興、自力更生の運動を開始した所以でありこの目的を達するには優秀な中心人物を必要とするがかやうな人物は極めて稀であるために各地に農民道場または農事訓練所を開始して中心人物の養成を開始した、道場の使命はこの訓練から十分領得し得ると思ふから話を避けるがかく立派な土地を選び容器も出來たのであるから今後十分努力して『風袋ばかりだ』といふ譏りを受けぬやうに職員も生徒も十分な働きの出來るものになつてほしい

自分は十日ばかり南鮮の生活を續けて來たからその間の感想を話してみたい、朝鮮十三道くまなく廻つたが何所が一番惠まれてゐるか何所に一番將來性があるか考へてみると咸南は今後伸び行く立派な要素を備へ「全鮮一」といふも決して差支へない

海、山、畑、平地帶高地帶と生存に必要な色々な變化を含み地形長津の高原を初めまだ幾らでも伸びる可能の土地が多い、今日までは交通に惠まれず無價値であつたものも朝鐵新線は長津から中北と伸びる使命を有し惠山線も近く全通するし興水道も建設の機運が熟して來た、將來は興南―長津―惠山を結ぶ鐵道も出來ねばならぬと思ふ、かくして從來顧みられなかつた土地も相當の價値を生じ水田にこそ大なる期待はかけられぬが有畜農業や畑作には立派に適する、現在の耕作狀態は粗笨で原始的な掠奪農法であるが高田、秋田間には支那人の野菜畑が出來交も大變よろしいお互も努力すれば彼等位には十分に出來る、彼等は集約的ではあるが我等が乏しいから粗笨で原始的である

これについて昨日山崎延吉氏から過般來北海道、東北々陸地方を巡視して感想の手紙を貰つたがその一節に「二十五年前に見た北海道とは非常な差だ、原因は種々あらうが以前の北海道は水田に捉はれ過ぎてゐた、それを有畜農業や畑作に轉じて非常な進步を來した、これに比して北國や東北はまだ水田に捉はれ過ぎ畑作や有畜農業の重要性を悟らぬために農家各般の狀態が非常に遲れてゐる、それに比すれば朝鮮は確に進んでゐる、普通學校の教科に農業を多分に取入れた點など内地に一歩先んじた施設であつて朝鮮の農村は内地より一足先きに確固たる基礎が出來ると思ふ」とあつた、自分も至極同感である、是非前へて氣分を揃へて行けば内地より進み得る、諸君はそのつもりで奮鬪を重ねて戴きたい

次に話して置きたいことは「朝鮮は三つに捉はれ過ぎてゐる」といふ事である、農作といへば米作、樹木といへば松、財産といへば土地、この三つに捉はれ過ぎてゐる、これ等は特に是正を要する點でこれが是正されぬ限り將來大なる進展は期し難い

も一つ附け加へておきたいのは植林である、從來は山といへば燃料か建築材か水源涵養林を目標とするに過ぎなかつたが今後はかやうな單純な目的では濟まならぬ、化學工業の進步は木材の纖化利用範圍を著しく擴大し紙、人造絹糸、無水アルコール人造綿羊毛等々工業化しつゝあり植林の價値を增大することと頗る大である、諸君はかやうな點にも特に留意せねばならぬ

かくの如く農山漁村の人達の活動すべき前途は無限である、道場生はかゝる方面の中心として働いて貰ひたい、感想を述べて訓辭に代へる、どうか皆さんしつかりやりなさい

と約二十數分の大訓示を終つた總督は更に列席の郡守、警察署長に對し

こゝで養成された人物を最も有効に利用して地方の發達に資すると共に今後一層人物の詮衡を嚴にし優秀な人物を道場に派遣するやうに留意されたいと希望するところあつた

寫眞 咸南農民道場に入る宇垣總督（上）同開場式場で訓示する宇垣總督

面書記講習會

【廣川】郡では去る廿三、四の兩日間午前十一時から公會大講堂に管下各面書記八十名を集め面書記指導會を開催、京畿道産業部記村渕換氏を講師として左記の講習を行つた ▲更生計畫の要旨▲指導方法▲更生計畫の樹設會▲部落實査▲部落實査に對する批判檢討

釜山の火事 織物工場を燒く

【釜山】三十一日午後四時頃府内西面釜田里大島織布工場乾燥室から出火、工場九棟事務室等を全燒して五時鎭火、損害三萬圓、保險金四萬圓の契約がある、幸ひ死傷者なく原因は乾燥室の煙突から引火したものらしい

白系露人局 軍事課新設

【奉天】白系露人事務局では今回軍事課を設立し課長にヒヨトルカリニヨフ、副課長にグリゴリ・ゴネーク、顧問ボースポストリ・グラトルスキーの諸氏を任命したが軍事課青年隊は近く錦西ロシア人墓地に夏季野營を行ふ

南鮮の豪雨禍

家屋の流失倒壞などで 多數遭難變死者を出す 釜山府内も大騷ぎ

【釜山】南鮮地方を襲つた卅一日夜來の豪雨により一日午後四時までに各地の被害は鐵道關係を除いて左の如く判明した

▲金海邑西廣里は同夜十一時頃に至り洛東川氾濫し部落三十戸が流失約百名は高地に避難したが減水と共に遭難者十一名の溺死體を發見、なほ行衞不明七名がある

▲梁山面北亭里金某方裏の崖崩が大雨のため一日午前五時頃突然崩潰して三戸丸潰れとなつて重傷二名、輕傷者一名を出した

▲釜山府内でも急激な出水のため大新町一〇九〇鄭福任女(二四)は三十一日夜十一時頃知人宅から歸宅の途中寶水川に墜落して溺死、同一日朝草梁[illegible]製材所下に五十歳前後の男の溺死體が漂着水上署で檢屍した

▲釜山府内瀛州町六通りの幹線暗渠が土砂のため閉塞し溢れた雨水が舗裝道路を押しあげて電車線路を埋め不時の溺水の海と化して電車、自動車の運轉不能となつた

家屋倒壞し 六名下敷き 居合はせた花聟は あはれ慘死を遂ぐ

【咸興】既報、三十一日午後五時からの豪雨は一日午前十時までに百九十八ミリ、降雨百七十斗に達し大和町、[illegible]、湖景里新町一帶の家屋は浸水で大騷ぎをしてゐるが一日午前七時頃明月町[illegible]の裏山が崩れ家屋が倒壞したので警察署では消防組員、義勇消防隊員、警察署員總動員で救助につとめたが同家屋に居合せた六名のうち梁山郡上北面[illegible]教員韓共洪氏(二七)は即死、材料商外一名は重傷、他の三名は輕傷を負つた、因に即死した韓共洪氏は相當商の長女(一九)と婚約成り去る三十日來統、同家に滯在してゐたものであつた、なほこのほか龍南面本渠里でも洪水のため流れんとしてゐる女一名を救助したとの報があり新興署では各駐在所に命じて被害調査中であるが作物其の他の被害は相當甚大の模樣である

安邊も豪雨 南大川增水

【咸興】三十日から一日に亘る安邊の降雨は總量二百ミリ内に達し南大川附近の增水三米八を示した、これがために安邊水利組合導水路第一號暗渠吐口左岸數間缺潰、南陽―高山間定期自動車は不通となつた

豆腐のことで大喧嘩 重傷を負はす

【平壤】三十一日午後十時頃府内新里一一五豆腐商孫[illegible]、沈[illegible]歸(二三)の兩名は新里マーケット内商人の金鳳龍(三七)と豆腐代金督促のことから喧嘩となり孫と沈は相互協力して棍棒やスコップ等で金の頭部その他を目茶滅茶に亂打し瀕死するのを見て初めてびつくりして附近の平安醫院に收容應急手當をした結果漸く蘇生したが金は全治一ヶ月を要する重傷であり加害者兩名は平壤署で取調べ中

今井田總監 大同江視察

第二人道橋架設の 明年度實現を陳情

【平壤】三十一日午後十時十八分平壤着列車で入壤し鐵道ホテルに旅の疲れを休めた今井田政務總監は一日午前九時半上内平南知事、高橋平壤府尹、井坂警察部長の案内で先づ第二人道橋架設豫定地となつてゐる交通地獄の大同江人道橋に到りこれを詳さに視察し、ついで平壤に到り、折柄開催中の初等學校長と金組理事らの農業講習會場に臨み一場の訓示をなし、終つて大同江鐵橋附近の堤防に上り上内知事から水運狀況を聽き牡丹臺、平壤博物館に到り平壤神社に參拜してお牧の茶屋で晝食をとり、午後二時平壤鐵道ホテルに引き揚げたが、十八萬府民が翹望して止まない第二人道橋促進に關し府會副議長伯熊喜之助、松尾六郎、李基燦、金能秀の四氏はホテルに總監を訪ひ明年度實現方を陳情した（寫眞は上内知事から大同江の水運狀況を聽取する總監）

郷校山切崩し 圓滿に解決

附近住民や儒林も 當局の措置を諒解

【清州】既報、道廳舍新築敷地の盛土工事用土として大成普通學校裏郷校財産山を切崩すことゝなり孔子廟通りはトロッコレールを敷設するため交通禁止となつたので儒林や住民達は孔子廟の尊嚴を汚し大成町住民の交通を遮斷する措置だと陳情騷ぎまで惹起、郷校財産に手をつけてはならぬといふ儒林側の保守的主張にも一理はあるが郷校の大成町住民は同山と密接してゐるので衛生上その他の理由から盛山を或る程度切り開く必要があり、學校當事者も之を希望して止まず、當局でもこの點を考慮し他にも適當な用土採取山があつたにも拘らず進んで同郷校山を一部分切崩すことになつたもので此の事情が判明するに從つて一時騷ぎ出した一部儒林も漸次諒解に歸し、一方孔子廟通りの交通は住民の意を容れてトロッコレールを道路の片側によせ鐵條網を立てゝ片方は從來通り通行させ、三ヶ所の分岐點との交叉地點には監視人を置き交通の危險を防止するなど萬全の方法を講ずることになつたので、住民の不安も解消し萬事圓滿に解決した

自殺した兄のため 勘違ひの仇討ち

亡兄の墓前に連れ出して その妾を刺殺す

【光州】一日午前十一時ごろ光州警察署へ全身に返り血をあびた凄い形相の男が「たゞいま兄の仇を討つて來ました」と自首して出た、係官が驚いて取調べたところこの男は光山郡芝山面日谷里崔鍋上(二四)といひ、去る七月廿八日實兄が自殺したのを兄の妾である羅州郡三道面五田里羅玉禮(二八)が殺害したものと邪推し、一日朝同女を光山郡芝山面日谷里共同墓地の兄の墓前に誘び出し刃渡り七寸餘の庖刀で刺殺したものと判明、即刻同署では現場へ急行した

留守中に泥棒

【平壤】三十日午後十時頃府内幸町平安自動車商會社長金[illegible]氏が外出から歸宅してみると何時のまにか賊が侵入して室内を片ッ端から搔き廻し机の抽斗に入れて置いた現金二百六十圓を盜まれてゐることを發見、平壤署に犯人搜索中

陽山公普校同窓會

【永同】陽山公普校では二日午前十時から同窓會總會を開催、引續き川遊會

待望の 自働交換電話

今年から二ヶ年がかりで 愈よ平壤に出來る

【平壤】總工費九十五萬圓を投ずる待望の自働交換電話がいよいよ今年から二ヶ年繼續事業で實現することに決定、平壤郵便局分室局では今年度は廿五萬圓をもつて局舍を新築することにし近く工事に着手、明年度は七十萬圓をもつて機械を据付けておそくも十三年春からは開通するはず

忠北辭令 (卅一日附)

高普教諭（清州）松坂 [illegible]
任朝鮮高女教諭
補清州高普校教諭
高女教諭（清州）大城 寛一
任朝鮮高普教諭
補清州高普校教諭

人の動き

▲平野勉次郎氏（咸興衛戍病院長）一等軍醫正に進級旭川衛戍病院長に轉補
▲永田咸興憲兵分隊長 千葉分隊長に轉補
▲吉屋隊元山憲兵隊長 敦賀分隊長に轉補
▲宿吉忠山憲兵分隊長 朝鮮憲兵隊司令部付に轉補
▲大島 士氏（油肥號合會理事長）三十一日清津へ
▲村田翔子孃（村田咸興署消防主務二女）二十九日永眠、二歲
▲山下浩二君（山下惠山土木出張所長二男）三十一日永眠、四歲

日本棋院 昇段大手合戰譜 (8)

三段 増淵たつ子　互先 先番 三段 小泉重郎

對局者の言葉

（黑）ロ二九とツケる時分には極度に細かいので閉口しました

（白）ロ二四で「る五」と受けるのは餘りにも就氣地がないのでせん

（黑）白ロ二四で右方面の連絡を絶たれては、ロ三七とこゝに一着備へてゐないと本當ではありません

（白）ロ三八以下は、ロ四四と受ける前の利かしなのです

（制限時間各八時間）
所要時間 累計（白七・〇三 黑六・〇八）
（一分以内は切捨）

黑		白	
●ロ二七	ほ十七 3	○ロ二六	に十七
●ロ二九	へ七 2	○ロ三十	へ八 3
●ロ三一	ほ六	○ロ三二	に七
●ロ三三	る六 5	○ロ三四	ち五 1
●ロ三五	と一 6	○ロ三六	り一
●ロ三七	を七	○ロ三八	ぬ七 1
●ロ三九	ぬ六 1	○ロ四十	り六
●ロ四一	ぬ八	○ロ四二	り七
●ロ四三	る七	○ロ四四	を五
●ロ四五	と七 3		

評解 五段 村嶋誼紀

●黑ロ二九とツケてロ三一と突張つたのは、先手でこゝの固めを確かにし、ロ三三まで競足を伸ばさうの準備と察せられる
○白ロ三四のトビは、黑若しロ三七でロ四四などにコスンで來たならば、ロ四三にツケて退路を絶たうとの肚である
○白ロ四四と受ける前に、ロ三八以下の手順を踏んだのは當然ではあるが、その緩まぬ態度は學ぶべきである
●黑ロ四五のノビは省略出來ない好點である

京城日報　朝刊　朝夕刊共八頁
發行所　京城府太平通一丁目　合資會社 京城日報社

新潮文庫

東西名著の大衆化・知識と興味の泉

小說

家（上・下）　島崎藤村
春　同
或る女の生涯　同
伸び支度　同
勝敗　菊池寛
青春圖會　同
羅生門　芥川龍之介
傀儡師　同
風　山本有三
學生時代　久米正雄
破船　同
無限　吉田絃二郎
人間苦　同
靜夜曲　同
天國の記錄　下村千秋
蟹工船・不在地主　小林多喜二
蒼白き薔薇　中村武羅夫
久遠の像　加藤武雄
空の彼方へ　吉屋信子
海の極みまで　同
地上（地に潜むもの）　島田清次郎
地上（地に叛くもの）　同
直八こども旅　長谷川伸
貝殼一平（上・下）　吉川英治
雲霧閻魔帳　同
パノラマ島奇談　江戸川亂歩
吸血鬼　同
黄金假面　同
犯罪發明者　甲賀三郎
幽靈犯人　同
魔人　大下宇陀兒
海燕　小島政二郎
終篇金色夜叉　小栗風葉
偽れる未亡人　三宅やす子
女の一生　モオパッサン
父と子　ツルゲエネフ
初戀　同
ボヴリイ夫人　フロオベル
サイラス・マアナー　エリオット
テス（上・下）　ハアディ
デカメロン（上・中・下）　ボッカチオ
懺悔錄（上・下）　ルソオ
白痴（全四卷）　ドストエフスキイ
夜ひらく　モオラン
椿姫　デューマ・フィス
モンテ・クリスト伯（全六卷）　アレクサンドル・デュマ
從妹ベット（上・下）　バルザック
アイヴンホー（上・下）　スコット
ナナ（上・下）　ゾラ
ジェニイ・ゲルハート（上・下）　ドライサー
海の嘆き　サンピエル
モオパッサン選集　平野威馬雄譯
小さな町　フィリップ
サフオ　ドオデエ
カルメン　メリメ
サアニン（上・下）　アルツィバアセフ
背德者　ジイド
アッシャア家の沒落　アラン・ポウ
痴人の告白（上・下）　ストリンドベリ
寶島　スティヴンソン
ランデの死　アルツィバアセフ
森の處女　ビョルンソン
ヘルマンとドロテア　ゲエテ
最後の一線（上・下）　アルツィバアセフ
バッドガール（上・下）　デルマー
神々の死（上・下）　メレジュコフスキイ

研究

現代世界文學概觀　千葉龜雄
佛蘭西文學概觀　吉江喬松
獨逸文學概觀　山岸光宣
露西亞文學概觀　昇曙夢
ギリシヤ文學研究　野上・吳・新關・山田
小說研究十二講　木村毅
近代文藝十二講　生田・野上・昇
近代思想十六講　中澤臨川
東洋思想十六講　高須芳次郎
日本思想十六講　同
日本近世文學十二講　同
明治大正藝術史　土岐善麿
山家集・金槐集拾遺研究　齋藤（清）・風卷・加藤・藤村
近松研究　木村・藤村
西鶴研究　片岡・山口
芭蕉研究・蕪村研究　太田・河東
種の起原（上・下）　ダアウヰン

感想・評論

雀の生活　北原白秋
小鳥の來る日　吉田絃二郎
草光る　同
木に凭りて　同
わが詩わが旅　同
山家日記　同
靜かなる土　同
春の日　同
眞實に生きる惱み　生田春月
影は夢みる　同
生命の道　同
人は何によって生くるか　トルストイ
我が懺悔　同
光の中に歩め　同
貧者の寶　メエテルリンク
人生論　トルストイ
戀愛論　同

詩歌

明治詩歌選　詩歌選大家
大正詩選　白鳥・川路・福田編
昭和詩選　白鳥省吾編
白秋詩歌選　北原白秋
感傷の春　生田春月
靈魂の秋　同
春月小曲集　同
澄める青空　自然の恵み　生田春月
沈默の血汐　山上に立つ　野口米次郎

縮刷・現代詩人全集

初期詩人集
島崎藤村集
土井晩翠集
薄田泣菫集
蒲原有明集
岩野泡鳴集
野口米次郎集
横瀬夜雨集
北原白秋集
三木露風集
川路柳虹集
生田春月集
堀口大學集
萩原朔太郎集
千家元麿集
新選金子薫園集　金子薫園
ゲエテ詩集　生田春月譯
ハイネ詩集　生田春月譯
バイロン詩集　幡谷正雄譯
ワアヅワス詩集　幡谷正雄譯
ホイットマン詩集　白鳥省吾譯
ツルゲエネフ散文詩　生田春月譯
イヴァンヂエリン　ロングフェロー
神曲（上・下）　ダンテ　生田長江

戲曲

女人哀詞（唐人お吉）　山本有三
同志の人々　同
ハムレット　シェクスピア

其他

肉彈　櫻井忠溫
戰はこれからだ　同
銃後　同
此一戰　水野廣德
人の一生　岡本一平
漫畫 坊っちゃん　近藤浩一路
漫畫 吾輩は猫である　同
テキサス無宿　谷讓次
浴槽の花嫁　同
もだん・てかめろん　同

總目錄進呈　希望者は送料二錢封入御申込あれ

東京 牛込　新潮社

實業之日本　八月一日號

使った人・使はれた人　—思出を語る—　藤山雷太

○再吟味下の我が貿易國策　法學博士 津村秀松
▲繭高景氣と生糸の今後　森本宋
▲ローズヴエルトとランドン……清澤洌
○鄕誠之助と藤原銀次郎【關東産聯をめぐりて】
○有馬賴寧伯が會頭になるまで【産業中央會コタゴタ話】
【政界夜話】內閣三長官……廣田內閣三羽烏論

思想はどうなる

論壇の雄が語る今後の思想……室伏高信

□青年時代は人生の基礎工事期　現代青年を思ふ……實業之日本社長 增田義一

此の人…
此の題…

☆漏の中の選擧地盤　石井光雄
☆清風閑話　松永安左エ門
☆魚屋の親爺　窪田四郎
☆私の夏　膳桂之助
☆私の雅號と雅印　小笠原長生
☆命がけの叫び　名取夏司
☆屋上の怪人　北田內藏司
☆ひやりとした話　朝倉每人
☆淺草で時と十圓札　小野賢一郎
☆前に遭った話　河路寅三
☆南氷洋上の鯨捕り　馬場駒雄
☆北洋の蟹工船　木下信貴

凉風閑話

凉味をそゝる…
銷夏讀物…

○濠毛輸入と人絹株　再檢討
○サラリーマンが預金代りに買って見たい株
▼裸一貫から三千萬圓儲けた後宮信太郎氏奮鬪錄
▼保險外交四十年　吉田義輝

大當り解剖　彼等は何がよかったか

平生釟三郎　加藤勘十　藤原銀次郎
小林一三　土方成美　太田正孝
正力松太郎　横光利一　長谷川伸
江崎利一　久保政吉　川端龍子
宮本三郎　古川緑波　柳家金語樓
小唄勝太郎　高杉早苗

▼こんな人は短命・こんな人は長命　醫學博士 木村徳衛
▼どんな人が肉食すべきか・菜食すべきか　醫學博士 一松美利
▼夏の傳染病と豫防及び治療法　內科 櫻田十次郎
▼高周波療法で痔その他の難病を治した體驗

價三十錢　東京銀座西　實業之日本社

朝鮮語講義錄

內鮮專門家諸氏執筆
斯界唯一の指導機關（見本進呈）

◇月額六十錢◇三ケ月一圓七十錢◇六ケ月三圓四十錢◇一年（全部）六圓五十錢◇
◇右合本　總クロース上・中・下三冊一組　定價六圓五十錢（送料五十錢）
◇特典　右一年分又は合本の御申込には「朝鮮語試驗問題に譯文集」（定價一圓送料十六錢）を一冊贈呈す

本講義錄は斯界唯一の指導機關にて內鮮專門家諸氏の執筆に係り會話、文法、諺解、語彙を初め必要科目を網羅し其の講述の平易にして懇切なること世上既に定評あり。年々施行さるゝ各種試驗合格者は殆ど本講義錄講習者を以て占めつゝあり、以て效果の顯著なるを知るべきである（全部印刷済につき幾月分にても同時に發送することを得）

普通學校　朝鮮語讀本譯解

◇卷四出づ（送料十六錢）卷一（送料十四錢）卷二（送料十六錢）卷三（送料十六錢）

わかり易い朝鮮語會話

從來、內地人に取り比較的學習困難とされてゐる朝鮮語をわかり易く初歩一般的知識を習得せしむべく平易簡明に詳述し昭和五年改訂の諺文綴字法を準據したるものである定價一圓送料十六錢（內容見本進呈）

京城府太平通二丁目　朝鮮語研究會

美味滋養・品質第一

蜂ブドー酒

レッテル二枚で……

金四拾圓 割引勸業債券

外お好みの大景品・總當り

一等　（一・二・三等はお好みの一品進呈）
四十圓也 割引勸業債券（一等三千圓割増金附廿回券二枚）
卓上ミシン
白無地縮緬
シルク東コート
結城紬

二等
錦紗繪羽羽織
小供用自轉車
牛皮セピヤ折鞄　又は旅行用鞄
銘仙夜具蒲團地
電氣柱掛時計

三等
紅茶セット
婦人用 晴雨兼用洋傘
高級置時計
模樣銘仙

四等
二色シャープペンシル

應募者全部へ優美な……

鎖附高級ナイフ呈上

規定

蜂ブドー酒の包紙のレッテル又はレッキス（大瓶）の黄色い包紙のレッテルの部分を切抜き二枚を以て一口とし各裏面に住所氏名、及びこの新聞名をハッキリ御記入の上、封書（四匁ごとに三錢切手貼付）にて左記へお送り下さい。抽籤に依り當籤者へ景品を進呈いたします。

・〆切　昭和十一年八月三十一日
・抽籤方法　一口毎に抽籤券一枚進呈一千口一組　抽籤番號各組共通　通信社員（廣告取次社員）立會嚴正抽籤
・當籤發表　昭和十一年十月一日前後
・レッテル送り先　東京市日本橋區室町一丁目　蜂ブドー酒本舖　宣傳部

本紙一萬號記念懸賞小說二等當選 錄無斷上演映畫

春を待つもの (87)

山下ハル子 作
寺本忠雄 畫

再會 (七)

六疊位の二間續いた溫突の奧には病人が寢てゐて、入口の方の室には頼太の外に、醫者らしい四十位の男と白い看護服を被つた若い看護婦がゐた。

闘一郎が入つて來た氣配に病人は此方を嬉しげに振返つた。闘一郎が最後に逢つた時からすれば、一時に十年も歲を取つたやうに老成てみるやうで、頬骨が恐ろしい程飛出て見えた。呼吸をする度に鼻腔がふくれ上つて咽喉の奧からゴロゴロと無氣味な音がきこえて來る。

「闘々有難う——」やつとき丶とれるやうに低い聲でいつて、病人は言葉を置いて喘ぐやうに續けた。

何か未だ云ひたさうに口をもぐもぐ動かせてゐたが激しい咳のためにそれを遮られた。

闘一郎は周章てゝ薄い夏布團の上から激しく波打つ胸の邊りを輕く撫でながら、浩介の瘦の目輪子の姿が見えないのを淋しく思つた。

浩介の咳が中々止まらないので醫者は看護婦に注射器を持たせて病人の枕元へ座ると、その左の腕に藥をつぎ込んだ。いゝ鹽梅に藥が利いたらしく病人は咳が止むと不規則な寢息を立て始めた。

「兎に角、今動かすことが出來ないんで——」

愛子の顏に目を据ゑると「愛子、お前は何時迄も闘さんに可愛がつて貰ふやうに心掛けるんだよ!」

愛子が吃驚りしたやうに下を向いてしまうと、浩介は續けて、細い力の無い聲で

「なにとつて、それ以上の幸はないんだ。え?解つたらう?」

愛子は仕方なしに點頭いてしまつた。一座の中は水を打つたやうな靜けさで、輪子の忍び泣きの聲だけが苦の中の空氣に不思議な響きをもたらしてゐた。

は強ひて微笑を浮べやうとしてゐるらしかつたが、笑ひ顏の代りに細い泪の線が現れた。

頼太は不安氣な顏をして此方の室に入つて來ると、闘一郎と向ひ合つて息子の顏をそつと覗き込んでゐた。

「何時此方へ歸つて來たの?」

浩介は弱々しい聲で、闘一郎の顏から目を離さずに續けて云つた。

「昨日二週間程前に……」

「僕は、歸るのを待つてゐたんだよ!」

「濟まなかつた。僕も逢ひたいとは思つてゐたんだが」と、一寸間を置いて、闘一郎はひどく云ひ難さうに、

「色々、つまらない用事に追はれてねえ……」話してゐる內にも病人は腎が熱のために乾くらしく、殆ど絕え間なく傍のガラスの水差しへ手を延してゐた。

「あゝ、それに、お父さんが可けなかつたんだつてねえ。本當に氣の毒だつた。折角歸つて來て……。全く氣の毒なことだつた」

浩介は、目を閉ぢて、それは闘一郎に話すと云ふより自分自身に云ひ聞かせてゐるやうに一言一

醫者は嘆息するやうに云つて頼太を見た。

頼太は疲れたやうな低い聲で、「大丈夫でせうか?」

「……」

當惑した醫者が小首を傾げたのと、浩介がパッと目を開いたのと殆ど同時だつた。

病人は、傍に闘一郎が座つてゐるのを見ると、安心したやうな色を見せて、

「闘さん!」と、云つて手を延した。その拍子に闘一郎の後でチッと顏を此方に向けてゐる輪子に氣がつくと、

「あ、輪子さん、貴女も來て異れたのですね」

瞬間浩介は喜色を現はして何事かを愉しむやうに目を閉ぢてゐたが

「僕は死にたくない」と其齒に座つてゐる人達が吃驚するやうに云つた。

「僕は、此の儘死んではならないと思ふけど……」

「さうとも! 早く以前のやうな體になつて皆んなを喜ばせてくれ給へ、浩さん!」

病人は頻りに點頭いてゐたが、

三日の番組 (月曜日)

JODK

第一放送

午前六時(熊)ラヂオ體操―熊本市九州學院校庭より中繼―
同六時三〇分(伯林)第十一回國際オリムピック大會放送
同七時 今日の天氣見込
同七時一分(東)朝の修養 森信門闘(十) 神保如天
同七時三〇分(熊)ラヂオ體操
同九時(東)家庭メモ
同九時一〇分 氣象通報(釜山)
同九時一五分 氣象通報、料理獻立
同九時五〇分(東)野球試合實況(京城は第二放送)(釜山は一時五分より)第十回都市對抗野球大會―明治神宮外苑野球場より中繼―
同一〇時三〇分 常識講座 朝鮮の國稅(四) 總督府稅務課長 村山道雄
正午(東)時報 日用品値段、鮮魚司値段
午後零時五分(大)シネマコント 一、一刀流指南 稻垣浩原作 深水藤子 二、與太者サーカス中野美原作 月田一郎
同零時三〇分(東)國民歌謠 一、朝(勞働雜詠三部作の內)島崎藤村作詞小田進吾作曲大塚楠男編曲 二、椰子の實 島崎藤村作詞大中寅二作曲 藤山一郎 伴奏 AKラヂオアンサンブル
同零時四〇分 ニュース
同三時四〇分(東)氣象通報
同四時 ニュース(氣象通報・釜山)
同六時(東)偉人物語 吉田松陰 テキスト一九ページ
同六時二〇分(東)コドモの新聞 村岡花子
同六時二五分(函)趣味講座 史跡巡り(三)北道道南の綜合 函館圖書館長 岡田健藏 大亂とその遺蹟
同六時五五分(東)カレントトピックス
同七時 ニュース・天氣見込・職業紹介
同七時三〇分(東)講演 第七回世界教育會議について 帝國教育會長 永田秀次郎
同八時(東)演藝通信(第一夜)
同八時三〇分(東)浪花節 村松梅吉 德川夢聲外 三大夫名殘の雪夜
同九時(大)連續物語(一)《白蓮紅蓮》菊池幽芳原作 題詩朗詠 河原崎久恵 脚色 JOBK文藝課 伴奏 大阪ラヂオオーケストラ 作曲編曲 指揮 內田元
同九時三〇分(東)時報・ニュース・氣象通報・翌日の番組(地方へのニュース・レコード音樂 京城)
同一〇時 ニュース 氣象通報(地方へのニュース(朝鮮語・釜山))

第二放送

午後六時三〇分 アコーディオン獨奏 金一波
同七時 經濟解說 裵成龍
同八時 常識講座 張壽震
同八時三〇分 ヴァイオリン獨奏 桂貞植
同九時 歌詞 文圃仙
同九時三〇分 雅談 申鼎(鉉)

四日のきゝ物

午前六時三〇分(伯林)第十一回國際オリムピック大會放送
同七時一分(東)朝の修養 無門闘(三) 神保如天
同九時五〇分(東)野球試合實況(京城第二放送)第十回都市對抗野球大會―明治神宮外苑球場より中繼―
同一〇時三〇分(大)家庭講座 育兒 醫學博士 大久保直穆 八月の育兒
午後零時五分(名)マンドリン合奏 クラブドメニカ
同零時三〇分(東)國民歌謠 吉田松陰
同六時(東)偉人物語(二) 東京放送童話研究會
同六時二五分(秋)趣味講座 史跡巡り(三)靈名氏と角館 武藤鉄城
同八時二〇分 二曲と三曲 箏 西村清琴 三絃 中塚清夢 尺八 若狹花山
同九時(大)連續物語(二)《白蓮紅蓮》夏川靜江

國民歌謠 午後零時半

藤山一郎

一、朝(勞働雜詠三部作の內)

島崎藤村作詞
小田進吾作曲
大塚楠男編曲

朝はふたゝびこゝにあり、朝はわれらと共にあり、埋れよ眠行けよ、夢、隱れよさらば小夜嵐

諸羽うちふる鷄は、咽喉の笛を吹き鳴らし、けふの命の戰鬪の、よそほひせよと叫ぶかな

野に出でよ野に出でよ、稻の穗は黃にみのりたり、草鞋とく結へ鎌も執れ、風に嘶く馬もやれ

雲に饗うつ空の日は、語らず言はず聲なきも、人を勵ます其音は、野山に谷にあふれたり

流るゝ汗と脈との、落つるやいづこの野邊に、名も無き賤のものゝふを、來りて護れ軍神

野に出でよ野に出でよ、稻の穗は黃にみのりたり、草鞋とく結へ鎌も執れ、風に嘶く馬もやれ

あゝ綾絹につゝまれて、爲すよしも無く寢ぬるより、薄き襤褸はまとふとも、活きて起つこそをかしけれ

譬罪ふ蟲の賤が身に、羽翼を惡むものや何、酒か遊か歡息か、夢か愁か皆あらず

野に出でよ野に出でよ、稻の穗は黃にみのりたり、草鞋とく結へ鎌も執れ、風に嘶く馬もやれ

さながら土に繋がるゝ、重き鎖を解きいでゝ、いとゞ暗きに住む鬼の、昔の夢をいでむ時

口には朝の息を吹き、骨には若き血を纏ひ、胸に驕慢手に力、霜葉を履みてとく來れ

野に出でよ野に出でよ、稻の穗は黃にみのりたり、草鞋とく結へ鎌も執れ、風に嘶く馬もやれ

二、椰子の實

島崎藤村作詞
大中寅二作曲

名も知らぬ遠き島より 流れ寄る椰子の實一つ
故鄕の岸を離れて 汝はそも波に幾月
舊の樹は生ひや茂れる 枝はなほ影をやなせる
われもまた渚を枕 孤身の浮寢の旅ぞ
實をとりて胸にあつれば 新たなり流離の憂
海の日の沈むを見れば 激り落つ異鄕の涙
思ひやる八重の汐々 いづれの日にか國に歸らむ

講演 後七時半 第七回世界教育會議に就て

帝國教育會長 永田秀次郎

明年八月二日から七日迄第七回世界教育會議が東京に於て開かれる事に決定した、それ故明年の今月今日は會議の第二日目に當るので世界各國から來朝された多數の教育者によつて、教育事業の會議が正に開催されてゐるときである。

世界教育會議といふのは、世界聯合教育會の事業の一つであつて、一九二五年以來隔年に各地に於て開催された、昨年(昭和十年)英國のオックスフォードに開かれた第六回に引續いて明年開かれその第七回に當る會議である、この會議の目的とする所は世界の教育及教授の進步發達を圖り教育事業によつて國際親善を行ふにある

偉人物語 午後六時 吉田松陰

東京放送童話研究會

かくすればかくなることゝ知りながら、やむにやまれぬ大和魂

これは吉田松陰先生の辭世です、吉田松陰先生は天保元年八月四日長門國萩の城下松下村杉百合之助といふ人の家に生れました。幼名は大次郎後に寅次郎と改名しました、六歳の時叔父吉田大助の家を嗣ぎました、小さい時から他人に優れてゐて天保十一年十一歳のとき藩主毛利敬親公に對し講義をしたことがあるといひます、十五歳の時、江戶から歸つた山田宇右衛門といふ人から天下の大勢を聽いてから日本の將來のことを本氣で考へるやうになりました、廣く世界に眼をくばつて外國に負けないやうな國にしなければならぬと思つたのです、しかし、先生の新らしい思想は時の幕府の人々には判りませんでした、そのために先生はいろいろ苦勞をしたばかりか生命までも失ふやうなことになりましたけれど、先生の胸の中にはいつも『やむにやまれぬ大和魂』がこもつてゐたのです

當代一流 爭覇血戰譜 (4)

―(塚田氏一回戰二八日)―

平手 香落 六段 ▽塚田正夫
五段 ▲建部和歌夫

一局

圖は四三銀迄の局面

『持駒』 ▲建部氏 ナシ

九	八	七	六	五	四	三	二	一	
香	桂	銀	金	王	金		桂		一
	飛								二
歩	歩	歩	歩	歩	銀	角	歩	歩	三
					歩				四
						歩	歩	歩	五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩			七
	角						飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

『持駒』 ▽塚田氏 ナシ

持時間各九時間 消費時間 ▽二分 ▲六分

▽三四歩 ▲七六歩 ▽四四歩 ▲二六歩(6分) ▽三二銀 ▲二五歩 ▽三三角 ▲一六歩 ▽三五歩(1分) ▲一五歩 ▽四三銀(1分) ▲四八銀 ▽三四銀 ▲六八玉 ▽四二飛

觀戰記 (一)

双龍子

趣向と見せ脫兎の三四銀

花田門下の塚田、山本門下の坂口、土居門下の建部――このトリオこそ園碁の木谷實、吳清源同樣棋界に於ける花形、新時代の代表者である、

塚田六段の天才ぶりは讀者の既に御承知の通り、建部五段も天才の譽さに於ては塚田六段に優り劣りはない蓋、その經快にして硬堅寶無比の棋風及び最近の活躍は云はずもがな、兎も角この棋界花形代表兩氏の一騎討ちは、全好棋家諸君の決して見逃してはならぬ一戰ではある

兩氏とも本棋戰には二度目の出場、その節既に紙上紹介は濟んでゐるので省略します

□ □ □

三四步、七六步、四四步、二六步までは說明までもない香落戰の常道を辿つたもの、次の三二銀、二五步も誰もがよく用ゐる手

次に塚田六段は一寸考へてから四三銀上り、これも序盤作戰としては當然の手であるが惡形を叩けば、『作戰を明示するやうで面白くないが豫定の行動です――』と見る間もなく三四銀の構へだこの構へに對しては目下のところ遺憾ながら適切な應戰法が發見されてゐない

建部五段は持久戰の對策を講ずるか?或は急戰模樣に出るか?よほど愼重な態度で臨まねばなるまい

見てゐる方は興趣滿點

講評

八段 金易二郎

左香戰の場合下手方は敵の三四銀の布陣に對しては遺憾ながら最善と稱すべき方法がない

然らばどう應じたものかと云へば、先づ作戰を妨ぐるより外あるまい

依つて一六步のところ、三六步四三銀、四六步、三二飛、四八銀、四二角の時四五步の急戰手段がある、しかし此の時強く同步と取られてこで一一角成と指しても一金と防がれると、兩者力將棋とはしてみると三六步の變化の無理指しは自ら分る。因つて本局のやうに一六步と突き端を狙ふ布備の方が下手方として安全である

塚田君の三四銀、四二飛は好みの作戰故當ら咎むべきものではあるまい

しかし、四筋飛車の型で急戰さるゝを恐れるなら三二飛の構へで徐ろに駒組みを整へるべきである